

ヘルスシステム統合科学研究科博士前期課程 教育の方針

教育の基本的目標

ヘルスシステム統合科学研究科は、よりよいヘルスシステムの構築に資する人材を育成します。ヘルスシステムとは医療や介護の現場を含めた広く人間や社会の健康にかかわる人々とモノ、しくみを意味します。学生が他者との対話や議論を通して、ヘルスシステムに内在する課題について深く理解する力や自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解できる力(統合科学)を涵養し、課題解決に貢献しイノベーションの基盤を支え得る高い能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

国際的なヘルスシステムの構築の基盤を支え得るために専門力を活かす先駆者

教育の基本的目標に掲げられた、学生が「自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解し協働・統合できる」を専門力、「ヘルスシステムに内在する課題について深く理解する」を探究力、「広く協働する」をコミュニケーション力、「幅広い学びから自らの知を深める」を教養力、「課題解決のために活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出する」を実践力としてそれぞれ捉え、研究科の理念と目的に基づき、課題解決に貢献しイノベーションの基盤を支え得る「国際的なヘルスシステムの構築の基盤を支え得るために専門力を活かす先駆者」を養成します。

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 課題解決のために活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出する実践力
- ヘルスシステムに内在する課題について深く理解する探究力
- 広く協働するコミュニケーション力
- 自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解し協働・統合できる専門力(統合科学)
- 幅広い学びから自らの知を深める教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

本研究科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題解決のために活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出する実践力

ヘルスシステムにおける多様な困難や課題を理解し、課題解決のために他者と協働し新たなモノやアイデアの創出に向けて行動することができる。

【探究力】ヘルスシステムに内在する課題について深く理解する探究力

明らかにされた課題の本質について、自らの専門領域と他専門領域の視座や手法を踏まえて、物質的側面と人の内面的側面との両面より複眼的かつ論理的に明らかにし、創造的解決に取り組むことができる。

【コミュニケーション力】広く協働するコミュニケーション力

他者との議論を通して相互理解を促進し、協働を通して新たなモノやアイデアを創造することができる。

【専門力】自らの専門分野を深めつつ他分野を理解し協働・統合できる専門力

自らの専門領域をさらに深めつつ他専門領域の視座や手法を学び、それらを統合し社会の多様

な課題の創造的解決に協働して取り組むことができる。

【教養力】 幅広い学びから自らの知を深める教養力

学部で学んだ専門領域をさらに深め、また他専門領域の視座や手法を学ぶことを通して、自らの知を深めることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、研究科として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

研究科の学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

ヘルスシステムが内包する諸課題を知り、他の専門領域の多様な視座を理解し協働しながら課題の本質を考え解決へと導くために必要な知識や技能を身につけるカリキュラム「統合科目」を提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

自身の専門領域に関する先端的な知識や技能を学びつつ、関連する他の専門領域の知見や技能を吸収し統合し専門的な立場から課題を記述して社会実装も視野に入れて解決できる力を身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会で必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

英語での研究活動や実践現場での活動を想定して、学会等で日本語だけでなく英語での発表や交流する機会をもつことを推奨します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

①自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。

人が交わる全学共通教育や研究科共通科目「統合科目」群、知が交わる専門教育を通して、他者を理解しヘルスシステム統合科学の考え方や方法論を学び（「ヘルスシステム統合科学序論」、その考え方や方法論について演習を通して身に付け（「ヘルスシステム統合科学総論」）、さらに実践的なプラクティス（「先進病院実習」、「実践ヘルスシステム統合科学」）を通して、イノベーションサイクル活動の実践に必要な知識や能力を育成します。また、ヘルスシステムに関連する

現場の状況や課題を理解し、コミュニケーション能力の向上や倫理感も涵養します。「専門科目」群では、コースワークとして専門分野の先端的な手法や技術を学び、手法や技術を応用する思考を深化させ、課題やニーズを自身の専門領域の立場から理解して社会実装も意識した研究開発を実践できる専門家としての能力を育成します。さらにリサーチワークとして、コースワークで学んだ知識や能力を総合的に活用して特別研究に取り組み、イノベーションの基盤を支えるための知識や能力を向上させます。

②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。

自らの専門を深めながらも様々な専門との出会いにより、多様な視座を理解し協働しながらヘルスシステムが内包する諸課題の本質を共に考え、解決方策を共に創り、共に育む教育体系を提供します。

③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

実践的なプラクティス教育プログラムとして、「先進病院実習」、「実践ヘルスシステム統合科学」、複数の「インターンシップ」といった学内外・国内外とつながった実社会における学びを提供します。

学修評価の考え方

以下の考え方にもとづいて学修評価を実施します。

①統合科学のアプローチや様々な専門領域の視座や手法の理解について評価します。

「ヘルスシステム統合科学序論」、「ヘルスシステム統合科学総論」や概論科目において、統合科学のアプローチやイノベーションのループへの理解やヘルスシステム統合科学に関連する専門領域の視座や基本的手法が身に付いていることを、レポートや受講態度等で評価します。

②ヘルスシステムにおける多様な困難や課題の理解について評価します。

「ヘルスシステム統合科学序論」や概論科目においては、様々な専門領域の視座や手法などを理解していること、「医療政策」や「医学研究概論」では、医療の状況や課題を理解していること、「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」では、ヘルスシステムの現場を構成する異なる立場から課題の整理と考察が行えていることを、レポート等により評価します。また、修士論文の内容により多様な困難や課題の理解度を評価します。

③研究開発を実施して創造的解決に取り組む能力について評価します。

「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」では、課題解決策を考察していることをレポート等により評価します。専門的知識や手法を活用して取り組む特別研究では、新しい知見が含まれていることや新規な手法や技術を創造的に研究・開発していること、社会実装に関する考察をしていることを、修士論文および中間審査、最終審査でのプレゼンテーションと質疑応答により評価します。

④課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える能力について評価します。

専門科目では、先端的な専門知識や能力を身につけていることをレポートや期末試験等により評価します。また、「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」において、他の専門分野の学生と課題解決に向けた協同の記録や振り返りにより評価します。また、修士論文とその最終審査により課題解決能力が身に付いているかを評価します。

正課外教育の考え方

国内外の公開シンポジウムや学会等の学術交流への参加など、学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

課題解決に挑戦する実践力と、ヘルスシステムの課題について深く考えようとする探求力、広く協働しようとする意欲、専門分野を深め自らの知を深めようとする力を身につけている人材を学内外から広く求めます。

求める力

【実践力】

ヘルスシステムの課題解決に向けて、他者と協働して行動することができる。

【探究力】

ヘルスシステムの課題について複眼的な検討を加えて本質を明らかにすることができる。

【コミュニケーション力】

他者との協働や分野を超えた学際的研究により自らを高めることができる。

【専門力】

自らの専門領域の基礎研究や応用研究に留まらず、異なる分野の考え方や研究手法などを取り入れることができる。

【教養力】

自らの専門領域に留まらず、異なる領域にも興味を持ち学び続けることができる。

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験を毎年夏と冬と推薦選抜の3回実施し、合格者は4月（外国人特別選抜は10月入学あり）に入学します。入学選抜試験では、様々な能力や得意分野、異なる背景を持った多様な学生がこれまでに培ってきた人間性に富む豊かな教養や専門性について、筆記試験や口述試験等により評価します。

一般入試

原則として筆記試験・論述試験と口頭試問・面接を課しています（ヘルスケアサイエンス部門は書類審査、口頭試問・面接のみ）。筆記試験・論述試験では、本研究科に必要な素養を問う課題を課し、理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。また志望する教育研究分野の専門科目により、専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学部で修得した専門性、人間的信頼性などについて志望する研究分野の教員が評価します。

推薦入試

口頭試問・面接を課しています。口頭試問・面接では、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学部で修得した専門性、人間的信頼性などについて志望する研究分野の教員が評価します。

外国人留学生特別入試

ヒューマンケアイノベーション部門では、筆記試験・論述試験と口頭試問・面接を課しています（ヘルスケアサイエンス部門は書類審査、口頭試問・面接のみ）。筆記試験・論述試験では、本研究科に必要な素養を問う課題を英語または日本語で課し、理解力、解答の表現能力等を総合的に評価します。また志望する教育研究分野の専門科目により、専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学部で修得した専門性、人間的信頼性、就学の前提となる異文化適応状況と経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。

外国人留学生海外特別入試（Global Interdisciplinary Science Course）

書類審査により、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学術的専門性、人間的信頼性などについて志望する研究部門の教員が総合的に評価します。

入学前に学習しておくことが期待される内容

自らの専門分野については学部レベルの内容を十分理解していることが必要です。くわえてヘルスシステムとはなにか、統合科学とはなにか、自分なりに検討し考えをまとめておくことが期待されます。

ヘルスシステム統合科学研究科博士後期課程 教育の方針

教育の基本的目標

ヘルスシステム統合科学研究科は、よりよいヘルスシステムの構築に資する人材を育成します。ヘルスシステムとは医療や介護の現場を含めた広く人間や社会の健康にかかわる人々とモノ、しくみを意味します。学生が他者との対話や議論を通して、ヘルスシステムに内在する課題の本質を見極める力や自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解し協働をリードできる力を涵養し、課題解決に貢献しイノベーションを主導でき得る高い能力と人格を備えた国際的人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

国際的なヘルスシステムの構築の基盤を支え得るために専門力を活かす先駆者

教育の基本的目標に掲げられた、学生が「自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解し協働をリードできる」を専門力、「ヘルスシステムに内在する課題の本質を見極め、顕わす」を探究力、「他者との対話や議論を通して広く協働をリードする」をコミュニケーション力、「幅広い学びから自らの知を深める」を教養力、「課題解決のために活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出する」を実践力としてそれぞれ捉え、研究科の理念と目的に基づき、「国際的なヘルスシステム構築の基盤を支えるために専門力を活かす先駆者」を養成します。

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 課題解決のために活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出する実践力
- ヘルスシステムに内在する課題の本質を見極め、顕わす探究力
- 他者との対話や議論を通して広く協働をリードするコミュニケーション力
- 自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解し協働・統合をリードできる専門力(統合科学)
- 幅広い学びから自らの知を深める教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

本研究科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題解決のために活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出する実践力

ヘルスシステムにおける多様な困難や課題を深く理解し、解決策を創造し広く社会に発信することができる。

【探究力】ヘルスシステムに内在する課題の本質を見極め、顕わす探究力

自らの専門領域と他専門領域の視座や手法を踏まえた独自の観点より、物質的側面と人の内面的側面との両面より課題の本質を独創的に見極め、それを平易な言葉で社会に発信できる。

【コミュニケーション力】他者との対話や議論を通して広く協働をリードするコミュニケーション力

他者との互惠関係を構築し、協働をリードし新たなモノやアイデアを創造することにより、課題解決に貢献することができる。

【専門力】自らの専門分野の知見を深めつつ他分野を理解し協働・統合をリードできる専門力

自らの専門領域の知識・技能を駆使し、また他専門領域の視座や手法を学び、それらを統合し

社会の多様な課題の創造的解決ができる。

【教養力】 幅広い学びから自らの知を深める教養力

多様な価値観に学び、知を深め、いかなる状況下でも自らの能力を向上させることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、研究科として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

ヘルスシステムが内包する課題を多様な人々と協働し様々な視点から分析しその本質を解明し、独創的な課題解決策へと導くために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。また、解明した課題の本質や解決策を平易な言葉で社会に発信できる技能を育成します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

自身の専門領域の体系的な知識や技能を深め、専門的な立場から課題の本質を記述し、社会実装も視野に入れた解決策を創造できるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

英語での研究活動や実践現場での活動を想定して、学会等で日本語だけでなく 英語での発表や交流する機会をもつことを推奨します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

①自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。

人が交わる全学共通教育や研究科共通科目「統合科目」群、知が交わる専門教育を通して他者を理解し、ヘルスシステム統合科学の考え方や方法論に対する学びを深め（「ヘルスシステム統合科学特論」）、実践的なプラクティス（「ヘルスシステム統合科学アドバンスインターンシップ」等）を通して、イノベーションサイクル活動の実践に必要な知識や能力を育成します。また、ヘルスシステムに関連する現場の状況や課題を理解し、コミュニケーション能力の向上や倫理感も涵養します。さらに、リサーチワークとして、コースワークで学んだ知識や能力を総合的に活用して特別研究に取り組み、イノベーションの基盤を支えるための知識や能力を向上させま

す。「専門科目」群では、自身の専門分野に関連する先端的な科学や先進的な技術に関する講義を選択して履修することにより、専門的な知識や技術を現場の課題解決に応用する思考を深化させ、課題やニーズを自身の専門領域の立場から理解して社会実装も意識した研究開発を実践できる専門家としての能力向上を図ります。

リサーチワークでは、博士研究において、設定した研究課題に取り組んで社会実装も視野に入れた学術的成果を得て、国内外での学会やシンポジウムでの発表や学術誌論文の執筆により、自立した研究者や技術者として、自ら方針を示して課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える研究及び技術開発の能力を身に付けます。

②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。

自らの専門を深めながらも、様々な専門との出会いにより、多様な視座を理解し協働しながら、ヘルスシステムが内包する諸課題の本質を共に考え、解決方策を共に創り、共に育む教育体系を提供します。

③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

実践的なプラクティス教育プログラムとして、「ヘルスシステム統合科学アドバンストインターンシップ」、「グローバル・プレゼンテーション A・B」、短長期の「インターナショナル・インターンシップ」などといった学内外・国内外とつながった実社会における学びを提供します。

学修評価の考え方

以下の考え方にもとづいて学修評価を実施します。

①ヘルスシステムにおける多様な困難や課題の理解について評価します。

ヘルスシステムにおける多様な困難や課題を理解していることを、「ヘルスシステム統合科学特論」や2つの演習科目のレポート等で評価します。また、博士研究の中間審査会における自身の研究のヘルスシステムの課題との関連性の説明でも評価します。

②統合科学のアプローチの理解と専門知識の修得について評価します。

「ヘルスシステム統合科学特論」において統合科学のアプローチを理解していることをレポートにより評価し、また、問題解決に貢献する高度な専門知識を有していることを、専門科目のレポートや受講態度などにより評価します。さらに、博士研究の中間審査会や学位審査会では、博士学位授与に値する専門知識を有していることを、両審査会でのプレゼンテーションや質疑応答、および、学位論文の内容により評価します。

③物質面及び人間の理解と他者と協同した創出能力について評価します。

「ヘルスシステム統合科学特論」及び統合科目の2つの演習科目において物質面及び人間の理解と他者と協同した創出能力が身に付いているかを、レポート等により評価します。また、専門科目のレポートや受講態度により、物質面あるいは人間についての理解の程度を評価します。

④自立的な課題能力とイノベーション能力について評価します。

自立的な課題能力とイノベーション能力が備わっているかを、博士研究の中間審査会や審査会でのプレゼンテーションや質疑応答及び学位論文の内容により評価します。

正課外教育の考え方

国内外の公開シンポジウムや学会等の学術交流への参加など、学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

豊かな教養と専門力、そして高い倫理観を持ち、ヘルスシステムの課題解決に向けて、自らの専門領域にとどまらず、多様なステークホルダーと協働し、行動できる実践力のある人材を学内外から広く求めます。

求める力

【実践力】

ヘルスシステムの諸課題について複眼的に検討・理解し、解決のためのモノやアイデア創出に向けて率先して行動することができる。

【探究力】

複眼的検討により課題の本質に迫ることができ、多様な背景をもつステークホルダーが理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】

多様なステークホルダーとの交流を通して、相互に高め合うことができる。

【専門力】

専門領域における知識・技能を深めつつ、他領域の思考・研究手法を学び統合することができる。

【教養力】

他領域も含めてより広く深く学ぶことで自らの能力を高めることができる。

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

入学者選抜の基本方針

様々な背景をもつ多様な学生の入学機会を確保するために2種類の入学者選抜試験を毎年6回実施し、合格者は4月・10月に入学します。入学選抜試験では、様々な能力や得意分野、異なる背景を持った多様な学生がこれまで培ってきた人間性に富む豊かな教養や専門性について、口頭試問と書類審査により評価します。

一般入試

書類審査と口頭試問により、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学術的専門性、人間的信頼性などについて志望する研究部門の教員が総合的に評価します。

外国人留学生海外特別入試

書類審査により、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学術的専門性、人間的信頼性などについて志望する研究部門の教員が総合的に評価します。

入学前に学習しておくことが期待される内容

自らの専門分野については修士レベルの内容を十分理解していることが必要です。くわえてヘルスシステムや統合科学に関する基本的理解がなされていることが期待されます。